

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4490500081
法人名	有限会社 サン・ラポール鶴見
事業所名	グループホームひだまり
訪問調査日	平成21年7月 3日
評価確定日	平成21年8月11日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4 4 9 0 5 0 0 0 8 1
法人名	有限会社 サン・ラポール鶴見
事業所名	グループホームひだまり
所在地	佐伯市鶴見地松浦1250番地 (電 話) 0972-33-0750

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年7月3日	評価確定日	平成21年8月11日

## 【情報提供票より】 (平成21年6月19日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成19年7月9日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり			1,150円

## (4)利用者の概要 (平成21年6月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名	
要介護1	6 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2	5 名			
年齢	平均	81 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	西田病院 鶴見診療所 こうへいクリニック つるみ歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	海の青や山の緑が鮮やかで磯の香りに包まれ、鶴見の沖が一望でき、商店や民家も近く地域と距離のない環境である。
2	建物全体がゆったりとして、昔馴染みの写真や置物など心づかいが見られ、落ち着ける空間の配慮をしている。
3	一人ひとりの価値観を大切に、心の声に気づき寄り添う支援を目指していることから、職員は皆利用者を尊重し、大切な人として穏やかなやさしい支援をしている。綿密なアセスメントや観察記録で、ケアプランに活かし、日常の支援へ反映している。
4	職員間の連携が強く、学習意欲旺盛で、管理者は支援方法を適確に指導し、職員自身が「働く人の質が大事」「ここで働けて嬉しい」と認識し、積極的に仕事に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価について職員と話し合い、改善シートを作成し、具体的に取り組んでいる。理念は「地域と共に」が加わり、「災害対策」は毎月避難訓練を実施して検証を行い、状況に合わせた方法を話し合い、実践へと活かせるよう工夫している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価のねらいや内容について管理者が職員へ説明し、理解が得られた上で内容を具体的に話し合っている。各人で自己評価をし、話し合いまとめている。評価することでケアの質を高める活動へ結びついている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 幅広い立場の人々の参加により、2ヶ月に1回開催されている。積極的に意見を出し合っている。会議内容は適確にまとめ、記録として残している。内容も充実しており、事業概要、活動内容、災害時の協力依頼、家族会からの意見、外部評価結果のことなどを話し、ケアの向上や運営の改善に活かしている。特に地域との信頼関係が見られ、忌憚のない情報提供もあり、グループホームとしてすぐに対応している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:外部7、8) 毎月家族へ情報提供している。家族は運営推進会議や面会時に積極的に意見を出している。意見を反映し、状況に応じて個人ノート(交換ノート)をもうけている。家族の思いや意見を謙虚に受け止めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近くのスーパーへ買物や散歩に行き、馴染みの関係ができつつある。近くの小学生との交流や先生の研修受け入れなどから、年賀状のやり取りを行っている。自治会から頼られる事業所となっていることから、グループホームから地域に向けた取り組みも期待できる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境や日常の中でその人らしく生活できることを根幹におき、昨年の評価を受け、「地域」交流を盛り込んだ理念となっている。また、利用者の心の声に気付くことの大切さも理念の一つとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝夕の申し送り時に理念を共有しあっている。理念がケアの根本となっていることから、ケアの振り返りや支援方法についての話し合いが、実践に活かされている。迷った時も「理念は？」と考えて進んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所や小学校とは交流ができており、先生の研修も受け入れ、年賀状を出し合っている。近くのスーパーへ常時買物に行っているため、馴染みの関係ができつつある。地域の商店から惣菜を購入し、接点を設けている。自治会長や民生委員と頼りあえる信頼関係が見受けられる。近隣へ散歩に出かけ挨拶などしているが、交流までに至っておらず、取り組み中である。	○	グループホームから積極的に近所との交流の働きかけや、グループホームの専門知識を地域の高齢者へ還元するなど、地域と共に支え合っていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義や目的を職員へ説明し、職員全員が自己評価を行い、会議で話し合い、管理者がまとめている。前回の評価結果については改善に向け、職員と話し合い、改善シートで具体化し、実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。家族は交代で参加し、積極的に意見を出している。会議内容は簡潔にまとめられ記録している。外部評価結果や現状における問題点、ケアの質を高めるための話し合いがされ、地域から建設的な意見が出され、地域に頼られる関係づくりができつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所主催の認知症キャラバンメイト会議が毎月開かれ、参加している。市役所と共に地域への認知症の啓発やアピール活動に取り組み、協働関係にある。また、介護保険課、高齢者福祉課、生活保護課と質の高いケアに取り組むよう相談や話し合いをしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回広報紙を作成し、日頃の生活が見えるよう写真を載せ、健康状態や気付きを書き込み、家族へ送っている。ケースによっては個人ノートを作成し、家族は面会時に気づいたことを、職員も状態などを書き込み、情報の共有と意見交換を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は運営推進会議に出席し、意見を出している。また個人ノートに思いを書き込み、意見や不満を表現できるようにしている。家族は面会時、職員と気軽に声を掛け合い、信頼関係もでき、思いを伝えている。アセスメントは「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を使い、初めから家族の思いや願いなどを出すことができる仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にして異動は最小限にしている。異動時は必ず引継ぎを行い、ゆっくりと馴染んでいけるよう配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者は2日間管理者から専門研修を受け、先輩職員から指導を受けながら仕事に慣れるような仕組みがある。段階に応じた学習を介護研修センターで受けて、職場で伝達を行っている。また、ホーム内、事業所内の研修が毎月開かれ、状況に応じた研修を行っている。市役所開催の認知症専門研修に積極的に参加し、職員は学ぶことに意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「宅老所・グループホーム大分県連絡会」に加入し、研修に参加している。また、佐伯市内の同業者で「ひよこり相談島」を作り、2ヶ月に1回集まり、意見交換を行い、サービスの質を高める取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前、自宅など訪問して生活環境や状況を観察し、馴染みの関係を築き、支援をスタートしている。生活歴などを家族から聞きだし、馴染みの品や家具など持ち込みを勧め、グループホームに徐々に慣れるよう配慮している。困難ケースも多いようで、入居後は安心して馴染めるよう家族に宿泊も呼びかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」「心の声に気づき、心に寄り添った介護」を基本にしているため、利用者と職員は信頼しあい共に生活をしている。得意なことやできることを発揮するようさり気なく支援して、喜びや悲しみを共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の利用により、家族から生活歴、個性、できること、趣味、好きなことなど書き込んでもらい、日々の生活の中でも小さな反応からくみ取っている。「一人ひとりの心の声」に耳を傾けることを理念として、常に利用者の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となって本人、家族、関係者から意見や要望を聞き、ケアマネジャーと話し合い、計画を作っている。計画内容は身体的な機能維持、その人らしい生活、楽しく生活ができるよう、きめ細かくケアの実践に結びつくような介護計画である。毎日の申し送りの中で職員間で情報の交換を行い、プランへ活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	私の関わりシート、ふり返りシート、24時間シート、健康面など毎日多くの書き込みをしている。介護計画の実施についても毎日モニタリングをし、毎月5段階評価を行っている。3ヶ月毎の見直しが基本であるが、状況によっては毎月や随時見直しを行い、現状に即した計画作成をしている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診の同行はもちろんのこと、利用者の行きたいところへ出かけている。ラーメンツアー、イルミネーション見物、花火見物など季節に応じた楽しみを計画し、夜間でも対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族と話し合い、それまでのかかりつけ医を継続できるよう支援している。家族と職員の信頼関係のもと職員が受診支援を行い、医療機関と話し合い、状況に応じた連携支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	癌によるターミナルケアを今年度経験し、看取りの指針について医師や家族と話し合い、段階に応じた話も行ってきている。接し方、本人の心の変化に応じた心残りを残さないケア、痛みのコントロールなど具体的に職員間で話し合って取り組んでいる。今後、職員の負担やストレスを考えた支援方法も検討中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないような声掛け、語調、声のトーンなど管理者が随時指導しており、職員も認識している。自尊心を尊重したケアについて申送り時に話し合っている。個人情報保護についても職員は学習し、徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて起床や就寝を行っている。その日の状況にあわせて「ゆっくりと楽しく、心の声を読み取る」支援を行っている。写経をすることで生活ペースを維持できる利用者もあり、個々にさり気ない見守りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけをできる人が行っている。旬の食材を使った調理の工夫が見られる。野菜が不足している人には野菜ジュースなどで補っている。食の細かい人が何人かいるが、食べられないまま短時間で席を立っている。楽しく会話をしている人もいるが、ゆったりと楽しんだ状態には見えなかった。	○	職員配置にゆとりのある時間帯は、家族のように会話しながら家庭的な雰囲気の中で楽しく食事をすることが望まれる。偏食や食欲のない人に対して五感への働きかけなど食べなくなるような配慮が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が基本であるが、入浴したい時にも入浴できるようにしている。大小の浴室があり、希望や気分により入浴を楽しんでいる。状況によっては部分浴や清拭など清潔保持に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などから介護計画にその人らしい生活が盛り込まれている。般若心経の写経を筆で行う、趣味のパチンコに出かける、ゴミ出し、野菜づくり、大工仕事、椎茸のこま打ち、犬の世話などを、楽しく穏やかに生活できるよう支援をしている。また、時節にあった催しやドライブに出かけ、ラーメンや海鮮を食べるなど活力を引き出す試みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れの時は本人の状態に応じて、散歩や買物に毎日出かけるよう支援をしている。敷地内の畑に季節の野菜を植えて、利用者が外に出るきっかけ作りをしている。また、ゴミ出しなどの役割で、出て行く配慮も見られる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵はかけておらず、出入りは自由である。玄関内に木製のイスがあり、休憩したくなるような気配りや季節の花を植えてあり、階段昇降口には観葉植物を置いて気持ちが休まる空間である。職員は利用者の気持ちをくみ取り、外に出たい時は自由に出かけるような支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	山際の傾斜地ということもあり、毎月避難訓練を行っている。訓練ごとに検証を行い、個人ごとの誘導方法も職員間で共有している。災害時などへの対応として、食品などについては調理部門で保管している。運営推進会議の中で、地域へ向けての協力依頼を行っている。パンデミック対策も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎回チェックし、体重も定期的に測定し、健康管理を行っている。野菜を食べない人たちに対しては、野菜ジュースなどで補っている。食事内容は季節の野菜をふんだんに使い、繊維質の多いメニューを工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口はゆったりとし、木製ベンチがあり木の香りを楽しみながら一息つける配慮がある。畳やイス、ソファがあり、自由に好きな場所で過ごせ、廊下の随所に昔懐かしい写真が貼ってあり、自然に昔話が出てくるよう工夫している。全体的に暖かみのある色合いで、季節の草花や飾り付けが家庭的な雰囲気である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの机や仏壇、テレビ、花、家族写真、写経、自分で書いた絵など自分らしい居室で、のんびりとくつろげる居場所である。化粧品や洋服など目で見て分かるように配置し、個性を尊重した空間である。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	介護事業所 ひだまり グループホームひだまり
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市鶴見大字地松浦1250番地
記入者名 (管理者)	前田 修二
記入日	平成 21 年 6 月 19 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、地域という表現の理念がほしいといわれたので、皆で、地域という言葉盛り込んだ理念をつくりあげた。家族のように、我が家のようにの理念のもと、自宅に近い環境で生活できるよう、また、1人1人の心の声に気づくように努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で作上げた理念を新人の方も理解できるよう、朝・晩の申し送り時に理念の実践をする発言をしたり、時折、突発的に職員に理念のことを聞いたりして、理念の実現に向けて努力している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	より家庭的な雰囲気です・・・という理念は見学していただいたり、運営推進会議の折に家族や地域の方々にも理解していただけるよう発言している。又、その人らしい楽しみながらの生活は運営推進会議などで写真を掲載し、理解してもらえるよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際にはいつも声かけをし、隣近所とはいい関係にある。隣の惣菜屋さんは気軽に声などかけてくれ、何か行事があるときなどは惣菜を頼んだりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所の園児や小学生が時折ボランティアに来てくれる。散歩では、よく外出し、隣近所の方々とお話をする。Aコープには、買い物によく行き、店長さんなどなじみの関係が出来ている。	○ 地元の方々の交流もできつつあるがまだまだ参加が足りない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	松浦小学校の教員が10年経験者研修において、自施設を選んでくれた。地域のいろんな方々が認知症の方々を理解していただきたいと考えており、いいきっかけになればいいと思う。又、管理者は認知症キャラバンメイトになっており市役所と共同して、地域の方々に認知症について理解を深めようとしている。	○	保育所、小学生がよくボランティアにきてくれる。今後もいろんな意味で地域貢献したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年と今年の改善点などをさぐり、運営者、管理者は職員に自己評価及び外部評価を実施する意義を説明し、全員の職員に自己評価してもらっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、自治委員、区長、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、管理者により、2ヶ月に1度、日にちを決めて取り組んでいる。なるべく、ご家族の意見を反映させるため、毎月違ったご家族に意見などお伺いして、今後の施設運営に反映させている。ご利用者様にも加わっていただいたことがある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症キャラバンメイトに登録し、市町村主体の会議に月に1回出席している。又、介護保険課や高齢者福祉課、生活保護係とは常に連絡をとり、情報交換をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見制度については制度の説明をミーティングでし、理解させるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は毎朝、夕の申し送りでも本日の様子を確認し、又、虐待についての話をしたり、実際に虐待がないか常にチェックしている。	○	虐待については、手をゆるめると思わぬところで起きる可能性がある。常に注意をする必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては、常に研修を勧めており、実践者研修は毎年行ってもらっている。又、院内研修に関しては月に1度のグループホーム会議、月に1度の全体会議にて資料を作成し勉強会を開いている。今後は新人の方、中堅の方、ベテランの方に分けた研修も必要だと思われる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯市で同業者と交流する機会(2ヶ月に1度の相談員同志の交流会)をもち、意見交換をしている。又、グループホーム大分県連絡会に加入し研修などに参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	記録などの整理の為、残ってくれる方が多い。大変申し訳なく、ありがたく思っている。できるだけ早く帰れるように勧めたり、又できるだけ、職員の悩みを聴かれるように常に声かけなどしている。4月の焼肉をしながらの花見、どんちゃん騒ぎの忘年会を行なう。職員が分け隔てなく、のみゆにケーションを時折してくれるのは非常にありがたいと思っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心をもって働けるよう、よりよかったことに関しては「ありがとう」と声かけをし、常に前向きになれるよう努力している。新人はベテランの方に習って仕事をするようにしている。	○ 個人の職員の評価をどういう風にしていくのか、今後は個人個人の評価をどうしていくのか常に課題。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際にはすぐに決めさせず、本人やご家族がどういう状況で困っているのか探り、必ず、「他の事業所もありますけどこちらでよいですか？一度見学されてはどうですか？」といい、又、家族やケアマネとも十分に話し合いをする。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談に来られた時はソーシャルワークの視点を生かし、じっくり話を聴くようにしている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は本人や家族、ケアマネ、包括支援センターなどとじっくり話し合いをし、他の事業所や在宅のサービスも含め、じっくりと見極められるよう話を進めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気になじめるよう、自宅などで生活していた時と同じように生活していただきたいために、使っていた品物などは自由に持ち込めるよう勧めている。また、職員はまず、ご利用者様の様子を観察し、どういことが好みなのかを探るケアに努めるよう、また、新規のご利用者様には様子観察の記録を重視するようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	申し送りではお年寄りを尊敬する介護に努めて下さい。といっている。本人の出来る能力を生かしながら、情報やセンター方式を利用しながら、日常生活で好きなことを一緒にしながら(茶碗洗い、調理、配膳、下膳、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、草取り、野菜作り、ゴミ捨てなど)支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方の援助の必要性は、ご家族の方との話でよくする。入所の際の質問時に家族が来ないほうがいいんですかねーの問いかけにいつでも来てくださいと答えている。	○	今年目標・・・家族会の設置
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	よく来所されるご家族にはノートを作成し、玄関におき、施設内での出来事を報告している。又、毎月発行される広報誌にて、施設内の様子などを報告している。本人と家族のよりよい関係作りのため、変化があれば電話連絡をしている。又、来所の際にはお茶を出し、写真を時折見せながら会話がはずむよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ、会いたい人、行きたい場所に行けるよう支援しているつもり。手紙や電話など、可能と判断した方は職員がそっと見守りながらできるよう支援し、又、行きたい場所などあれば可能な限りサポートしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝・夕の申し送りで利用者同士の関係の把握に努め、関係性は大方把握できつつある。食事の位置や休憩場所の位置などにも気を配るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたりされた方でもいつでも家族と連絡がとれるような体制作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式やケアマネからの情報により暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族、ケアマネから情報を得るようにしている。また、認知症センター方式(認知症の方をよりよく知るシート)のA-1 A-3 A-4 B-1B-2 B-3 B-4 C-1-1 C-1-2 D-1 D-2をご家族に記入していただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録や24時間シートD-4、排泄チェック、バイタルチェック、1日のプラン表、私の求める関わり方シートD-5により、現状把握に努めている。また、全員でプランを考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員で担当を決め、介護計画を一緒に考えている。その人らしい介護計画になるよう個人個人、全く違う介護計画を立てており、プランを立て、ご家族と話をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランに関しては1ヶ月に1度ケアマネが見直しをし、3ヶ月に1回、各担当者で見直しをしている。ご家族との話ではなかなか、来れないご家族に関しては話し合いができづらい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は5種類ある日々の記録用紙に記入し、朝、夕の申し送り(管理者が出席できないときは電話連絡)にて情報を共有し、日々、見直しを図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携については精神科医と常に連絡をとっており、特に精神的に留意するご利用者様が多いので気をつけている。また、費用の問題やその他、家の方やご利用者様の状況が変わればいろんな対策があることも話し合いをその都度している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の自治会長、民生委員、区長、警察や消防署、Aコープ、商工会、保育所、小学校、中学校に広報誌を配り、協力を呼びかけている。保育所、小学生などはよくボランティアに来てくれる。また、カラオケボランティアや他のボランティアも時折来所される。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーや事業所とは常に連絡をとりあい、他のサービスを利用した方がいいと感じたときにはお話をしたりして病院への入院や他のサービスへとつなげている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議では常に参加していただき、意見をいただいている。又、認知症キャラバンメイトになり、協働して作業している。常に、お話ができるいい関係はできている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する際に本人やご家族と話し、かかりつけ医を確認し、適切な医療に結びつけている。また、受診して変更したい旨があればいつでも変更できる体制を整え、病院との連携に支障をきたさないよう配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	職員が医師と相談したりすることはいいことかどうか？
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	まだ、看護職と満足のいく連携がとれていない。今後も話しあっていきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	4月より終末期ケアに加算がつくようになった。グループホーム会議などで研修をしているが、今後も、もっと終末期について職員同志、話しあっていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	スタッフより、もう少し医療的な情報を伝えてほしいという意見が多かった。医師から言われることをそのままスタッフに伝えていいものか迷ったりしたが、(ストレスのことなども考えて..)しかし、それよりも事実をすぐに伝えることのほうが重要だと感じた。今後も勉強しながら話しあっていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		これまでに1名自宅へ戻られた方がいる。ご家族の意向や本人、ケア関係者と十分協議した上で情報交換を行い、住み替えによるダメージを防いでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンをチェックし、気持ちよく排泄していただくよう誘導したり、本人のしぐさなど気をつけるようにしている。できるだけオムツからリハビリパンツ、普通のパンツにできるよう申し送りでは伝えている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、それにとらわれず、入浴したい時には入浴していただけるようにしている。夕方の入浴にもできるだけ対応している。風呂場も2箇所あり、好みに応じれるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠時間は人それぞれで早く眠る方もいれば、ゆっくりされる方もいる。睡眠がたりてないと思ったときにはリビングの畳でも寝ていただいたりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活を全体の写真やビデオ、個別の写真をとって、アルバムに整理をして、時折見ながら楽しんでいる。又、個人個人違ったプランを立てて役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。ドライブ、散歩、買い物、などは日常的にしている。特に散歩コースは車も少ないので、空気もよく気分転換できる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人お金の関わりが違う支援をしている。財布やお金を持っていないと落ち着かない方には持っていていただき、所持金チェックをしている。又、買い物に行くときだけ、財布を渡したりしている方もいる。本人が支払える方はそっと見守りしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状態に合わせて戸外に出かけられるよう支援している。一人ひとりの希望にそえるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年はラーメンツアーを計画し、全員で出かけた。ラーメンが苦手な方は他のメニューを食べた。大変喜んでいただけたと自負をしている。その他皆で外出したりすることは結構ある。	○	ご家族と一緒にいくことがないので今後計画を立てていきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話したいという方がいれば、できるだけ本人が電話をしたりしている。又、手紙のやり取りはなるべくできるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親戚、知人の人間関係を知り、本人が好きな家族、知人、友人やもちろん、本人が気に入らない知人や親戚の方もいるわけで、そういう把握をし、ホロウしながら、居心地よく過ごせるよう援助している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については申し送りや勉強会で身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、危険防止やその他やむを得ない場合どうしてもしなければならぬという場合もありうる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最近では玄関のドアを開けたりして、日中は玄関の鍵を全くかけないケアに取り組み、なるべく自由な雰囲気を作っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全確認をしながら、利用者の所在を確認している。今は外出するときも所在確認はできている。夜間は2時間ごとの見守り、特に異常がある方はその方の状況にあわせバイタルチェックをおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全体としては、洗剤などは目に付かない手の届かないところに置いている。個別の部屋にはそれぞれの状態に応じて置いたり、置いてなかったりしている。危険状態は把握し、見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在は事故があれば事故報告書を書いてもらい、話をし事故防止につとめている。また、ヒヤリハットを作成し、改善に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応はグループホーム会議などで話し、日頃の業務の中で危険性や事故発生時のことは申し送りなどで話している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、避難訓練を指摘されたので、月に1回、避難訓練をしており、時間を計り、何が悪かったのかななどを点検している。2階の避難のことが問題視されるが、毎月の課題である。災害対策については年に1回の消防訓練を行っている。また、日頃の対策については運営推進会議で地区の方と話をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所説明時、ご家族にはリスクについて十分な話をしている。又、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応は日々の申し送り、会議などで確認しながら話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りは毎朝、夕に日勤者 夜勤者 管理者が必ずするようにしており、管理者が休日 不在の折には電話連絡をするように徹底をしている。それを職員間で共有できるよう介護日誌には名前チェック欄がありチェックするようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法 用量がわかるよう薬のファイルを作り、いつでも閲覧できるようにしている。申し送りで変化が見受けられれば薬の影響が考えられることも常に話をしている。又、個別の薬箱を作り、名前を記入しミスのないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便にできるよう、申し送りで常に便通のよくなるもの(例えば牛乳やバナナりんごなど)を食べていただくように言っている。運動もしていただく。	○	認知症の方は便をしたかどうかわかりにくい方も中にはいる。しかし、便のことは重要なので、何日出ていないのか目を見張っててください。声かけをしてみてくださいと、常に話している。便秘についてはできることなら自然排便がいい。便秘薬を使用しないケアをより考えていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行なっている。なるべく自力で出来るような支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重チェックは1ヶ月に1回行ない、状態をチェックしている。又、食事量、水分量に関しては記録をとり、チェックし、栄養状態が悪く、食事量が少ない方、水分量が少ない方は好みのものをチェックしいい状態が保てるよう援助している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては家族との合意の上、毎年かかりつけ医が行い、その他の感染症については外部からの感染症も防ぐため、張り紙などで通達し、注意している。消毒液も設置している。内部での感染症の恐れがあれば、いちやく病院で診察していただくようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限切れのチェックはいつも行い、注意している。臭いがおかしいものや色がおかしいものなどもこまめにチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広めに大きくし、置物や昔のものなど置いて入りやすい雰囲気になっている。建物周囲に芝生や木や緑のものを植え落ち着いて生活できるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は季節感を取り入れた飾り物など利用者と共に作成したりしている。光は暖色系の暖かいものを使用しており、ゆったりとした気持ちになれるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に畳の場所があったり、ベランダがあったり、入浴場はゆったりした気分になれるよう広くしたりしており自由に思い思い過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には本人や家族と相談し、使い慣れたなじみの物を持ってきていただいている。仏壇や事務机、息子さんが書いてくれた絵など飾っている方もいます。本人の好きな写真などを飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けての空気の入替えは気をつけていつも行っている。又、入浴場や廊下、部屋など極端に温度差がないように気を配っている。居室の温度調節も利用者の要望にあわせながら、極端に外気温と差がないように気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は縦に長い、中央にスタッフルームがあり、全体を見守れるようにしている。又、電気やトイレ、洗面所はあえて自動にしていない。本人のできる能力を使えるようにしている。できるだけ、見守りをしながら、できる能力を損なわないよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所はトイレと表示してみたり、便所と表示したりなるべく自力でできるようにし、居室も名前をつけた方がいいと判断した方は本人同意の上表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには野菜や花、草などがあり、ご利用者様が楽しめるスペースがある。又、ベランダでは景色を眺めながらゆったりとした気分になれるスペースがある。		



V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年グループホーム創設2周年です。自施設は重度の認知症の方が多いですが、何とか精神科医と連携をしながら日頃の介護に努めています。ご利用者のやりたいことや何を得意としていたのか、どういう話が得意なのかなどを見極めながら援助しています。近くは車の通りが少なく、散歩や畑にしょっちゅう出かけているのも特徴の1つだと思います。買い物や外出支援もできるだけ取り入れています。ご利用者様の個人アルバムも作成し楽しい思い出となるよう援助しています。2年目に入り、やっと利用者の方々が何を望んでいるのか、ご家族様が何を望んでいるのか少しずつわかってきたような気がしますが、それにともなって、いかんせん認知症も進行するのが実情です。

今後ご利用者様が安心して楽しめる施設作りをめざしていきたいと思っています。

緑や海に囲まれた自然豊かな地域です。是非、一度見学にお越しください。